

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
小林大祐・山中千恵・島岡哉		yamanaka@jindai.ac.jp	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
織田 暁子		仁愛大学 人間学部 コミュニケーション学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査演習 a	JNAa-110701-2	6人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

山中班の受講生6名は質的調査法に関する入門書を読んだのちに、全員で議論しつつ、自分たちの問題関心を各自の調査テーマとしてまとめあげていった。受講生は皆積極的に調査を計画・実行し、授業日以外にも作業をすすめてくれた。そのため、調査はほぼ計画通り進捗し、年度内に報告書をまとめることができた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

福井における「外国」イメージ調査

2. 調査の内容／概要：

福井の人々にとって「外国」がどのようにイメージされているか。ローカルなメディアがいかなる「外国」表象を行い、イメージを発信しているかを探るとともに、その背景にある「自己イメージ(福井イメージ)」について分析する。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

福井における外国イメージを調査するという目的のため、県内在住者を対象とした選定をおこなった。中でも、「福井」イメージを作る役割を担う人々を選択するようにした。

4. 主な調査項目：

福井新聞の北朝鮮表象・メガネ産業従事者にとっての「外国」・観光産業における「外国」の位置づけなど。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

ドキュメント法およびインタビュー法。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2011年7月～9月 福井県内各地 6人

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

一定量の人数へのインタビューが不可能であった調査もあり、偏りが見られる。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

内容分析

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

調査対象によってさまざまではあるが、「福井」において「外国」はやや遠いもの、ステレオタイプ化されて語られる傾向が見いだされた。

10. 報告書刊行の予定と概要：

他の担当者の報告書との合冊で2012年3月に刊行済み。